

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、「インベスコ プレミア・プラス・ファンド」は、このたび、第3期の決算を行いました。

当ファンドは日本を含む世界各国の債券、株式、資産資産（コモディティ）を実質的な投資対象とし、投資信託財産の成長を図ることを目標として運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



### 第3期末（2016年5月20日）

基準価額	9,740円
純資産総額	373百万円
第3期	
騰落率	2.4%
分配金（税込み）合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞  
右記＜お問い合わせ先＞のホームページにアクセスし、「ファンド一覧」等から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

## 交付運用報告書

### 第3期

（決算日 2016年5月20日）

作成対象期間（2015年11月21日～2016年5月20日）

## インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

＜お問い合わせ先＞

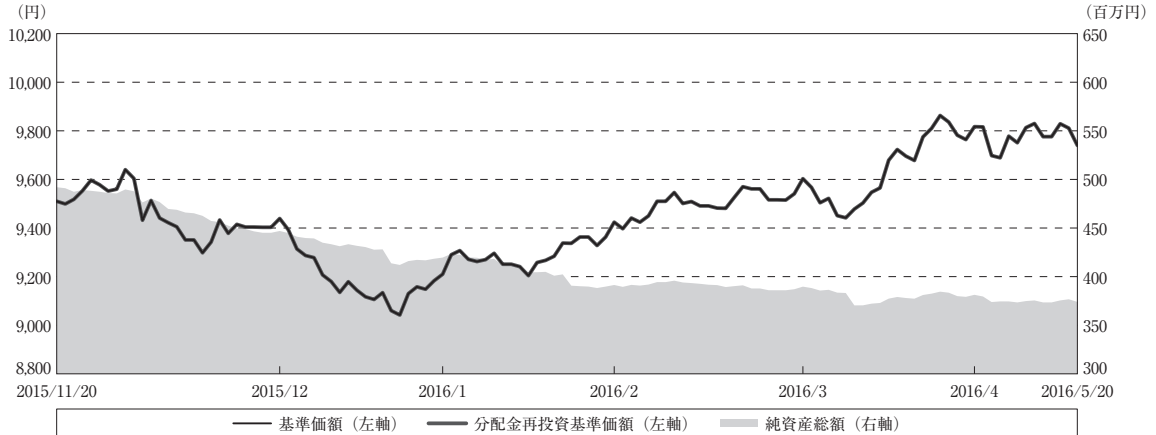
お問い合わせダイヤル：(03)6447-3100  
（受付時間：毎営業日の午前9時から午後5時）

ホームページ <http://www.invesco.co.jp/>

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2015年11月21日～2016年5月20日)



期 首：9,510円

期 末：9,740円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率： 2.4% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2015年11月20日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

## 【上昇要因】

- ・日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産 (コモディティ) を実質的な投資対象としているため、①2016年1月～2月にかけて債券市場において利回りが低下 (債券価格が上昇) したこと、②3月～4月にかけて株式市場およびコモディティ価格が上昇に転じたこと一が基準価額の上昇要因となりました。
- ・期待リターンの向上を目的としてその配分を変更する戦術的配分において、期の前半は、コモディティの戦術的資産配分を低め (アンダーウェイト) としたことが基準価額の上昇要因となりました。

## 【下落要因】

- ・世界的な景気減速懸念から株式市場の変動率が高くなり、2016年2月など大きな下落局面があったことが、基準価額の下落要因となりました。また期の前半は、原油を中心にコモディティ市場全体が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

## 1万口当たりの費用明細

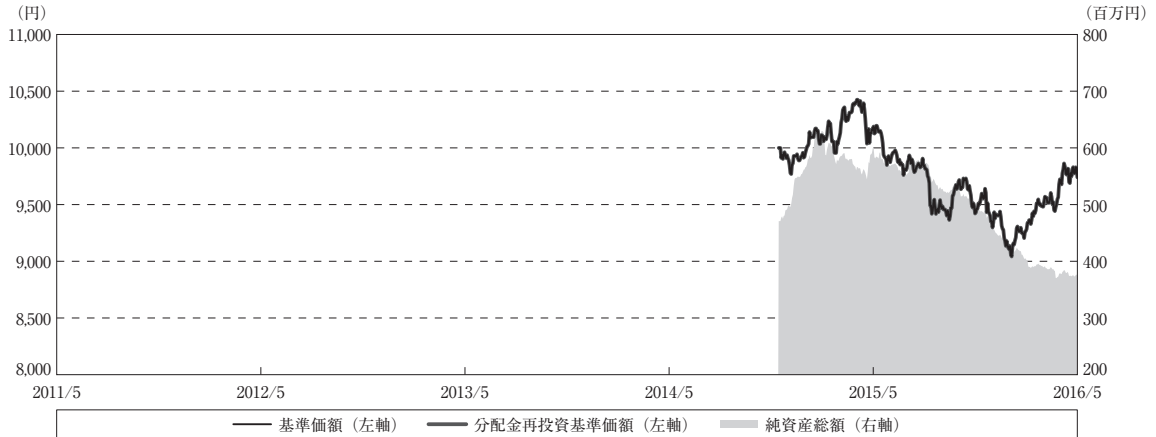
(2015年11月21日～2016年5月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 44	% 0.462	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 4 )	(0.043)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(38)	(0.403)	購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（ 受 託 会 社 ）	( 2 )	(0.016)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	5	0.053	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 1 )	(0.014)	監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	( 4 )	(0.039)	印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等
（ そ の 他 ）	( 0 )	(0.000)	その他は、外国有価証券に係る税金および信託事務の処理に要するその他の費用等
合 計	49	0.515	
期中の平均基準価額は、9,511円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2011年5月20日～2016年5月20日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2014年11月28日です。

	2014年11月28日 設定日	2015年5月20日 決算日	2016年5月20日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,188	9,740
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	1.9	△4.4
純資産総額 (百万円)	470	600	373

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2015年5月20日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドは債券、株式、資源資産(コモディティ)を実質的な投資対象とし、それら3資産のリスク寄与度を同程度に配分する戦略的配分を行うため、適切なベンチマークまたは参考指数が存在しません。このためベンチマークまたは参考指数を掲載していません。

## 投資環境

(2015年11月21日～2016年5月20日)

## 《債券市場》

米国30年国債	2.535% (前期末 3.067%)	英国10年国債	1.713% (同 1.987%)
ドイツ10年国債	△0.264% (同 0.150%)	日本10年国債	0.539% (同 0.782%)

※上記は各国債先物の当期末の最終利回りです。

当期の世界の債券市場は、期初より2016年2月前半にかけて、世界的に国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。米国では、2015年12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）において0.25%の利上げが実施されましたが、中国をはじめとした世界的な景気減速懸念や原油価格の下落などを背景にリスク回避的な動きが強まったことから、米国10年国債利回りは低下しました。欧州では、欧州中央銀行（ECB）による追加金融緩和期待などを背景に、国債利回りが低下基調となりました。その後は、期末にかけて国債利回りがおおむね横ばいの推移となりました。

## 《株式市場》

米国S&P500種指数先物	△1.9%	英国FTSE100種総合株価指数先物	△3.2%
欧州Euro Stoxx50指数先物	△15.1%	日本TOPIX先物	△16.2%

※騰落率は当期末時点（対前期末比）の数値です。

当期の世界の株式市場は、期初から2016年2月中旬にかけて大きく下落したものの、その後反発する展開となりました。世界経済の先行き不透明感や資源価格の急激な下落が、株価の下落要因となりました。一方で、①米国を中心にマクロ経済指標がおおむね堅調な内容となったこと、②ECBによる量的金融緩和策が投資家心理を支えたこと、③2016年2月中旬に原油価格（WTI先物）が1バレル＝26米ドル台まで下落した後は戻り基調となったこと一などを背景に、株価は上昇に転じました。

## 《コモディティ市場》

エネルギー（WTI原油）	△0.7%	工業金属（銅）	△0.6%
貴金属（金）	+15.9%	農産物（RICI）	+4.0%

※騰落率は当期末時点（対前期末比）の数値です。代表的なETCの価格を用いて計算しています。

当期のコモディティ市場は、中国景気の減速を背景とした需要減少懸念などを背景に、原油価格を中心に2016年2月まで大幅に下落しました。その後は産出量削減に向けての協調期待や米国の利上げペースが緩やかなものになるとの見通しから、原油市況や金価格などが上昇しました。

当期の原油価格は①中国の景気失速を背景とした需要減少懸念、②石油輸出国機構（OPEC）での減産合意が見送られたこと一などを背景に、期初より2016年2月中旬にかけて大幅に下落しました。その後は主要産油国による産出量削減に向けての協調への期待感などを背景に、原油価格は大幅に反発しました。

2016年1月には、中東情勢緊迫化などの地政学リスクの高まりから安全資産とされる金を買われました。その後も、米国の利上げペースが緩やかなものになるとの期待感が金価格の上昇を下支えしました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2015年11月21日～2016年5月20日)

インベスコ バランスド・リスク・アロケーション マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）を高位に組み入れ、日本を含む世界各国の債券、株式、コモディティに実質的に投資し、様々な経済局面において安定した投資成果を目指しました。残余部分はインベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）（以下、マネープール・ファンドといいます。）を組み入れ、安定した収益の確保を図りました。

マザーファンドでは、主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランスド・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘッジ付）に投資を行いました。同外国投資法人では、債券、株式、コモディティ資産に対しては、リスクの低い資産を多く、リスクの高い資産を少なく保有するリスク・パリティを基本とする戦略的資産配分とし、インベスコ独自のモデルを用いて、定量的に経済環境を分析、判断し、ポジションを調整することで、戦術的資産配分を決定しました。なお、効率的な運用を行うため、債券先物、株価指数先物、コモディティ上場投資証券およびコモディティ指数連動債などを用いました。

具体的には、まずリスク・パリティを基本として各資産クラスにてロング・ポジションを形成し、独自のモデルによって、以下のような戦術的資産配分を行いました。

- ・債券は、ほぼ期を通じてオーバーウェイトとしました。2016年4月にはニュートラルに近づけ、期末にかけてアンダーウェイトとしました。
- ・株式は、2016年1月～2月を除いてオーバーウェイトとしました。2016年1月～2月にかけてアンダーウェイトとした背景は、世界的な景気後退懸念の台頭により、市場のリスク回避姿勢が強まったことを反映したものでした。
- ・コモディティは、2016年4月以降、アンダーウェイトからオーバーウェイトに移行しました。

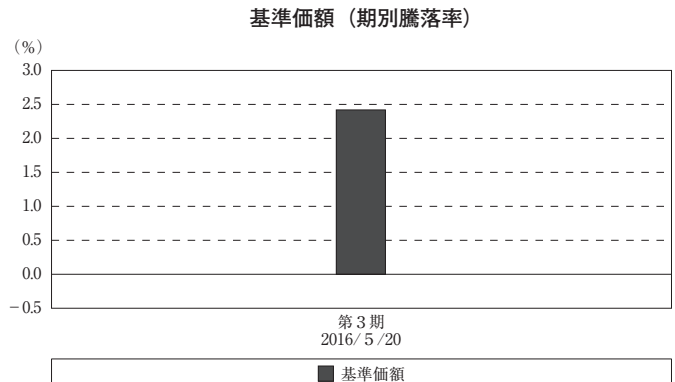
マネープール・ファンドでは、資産規模などを勘案し、短期金融商品による運用を行いました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年11月21日～2016年5月20日)

当ファンドは、運用の目標となるベンチマークや参考指数を設けておりません。

右記のグラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

**分配金**

(2015年11月21日～2016年5月20日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、当期は見送りとさせていただきます。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

**○分配原資の内訳**

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第3期
	2015年11月21日～ 2016年5月20日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	164

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

**今後の運用方針**

マザーファンドを高位に組み入れ、日本を含む世界各国の債券、株式、コモディティに実質的に投資し、様々な経済局面において安定した投資成果を目指します。残余部分はマネープール・ファンドを組み入れ、安定した収益の確保を図ります。

マザーファンドでは、主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券(円ヘッジ付)に投資を行います。同外国投資法人では、債券、株式、コモディティに対しては、リスクの低い資産を多く、リスクの高い資産を少なく保有するリスク・パリティを基本とする戦略的資産配分とし、インベスコ独自のモデルを用いて、定量的に経済環境を分析、判断し、ポジションを調整することで、戦術的資産配分を決定します。前記の方針に基づき、毎月月初時点での投資判断をもとにリバランスを行いながら、今後も規律あるプロセスに従った運用を行っていきます。なお、効率的な運用を行うため、債券先物、株価指数先物、コモディティ上場投資証券およびコモディティ指数連動債などを用います。

マネープール・ファンドでは、円貨建ての短期公社債および短期金融商品を中心に運用を行います。

## お知らせ

該当事項はございません。

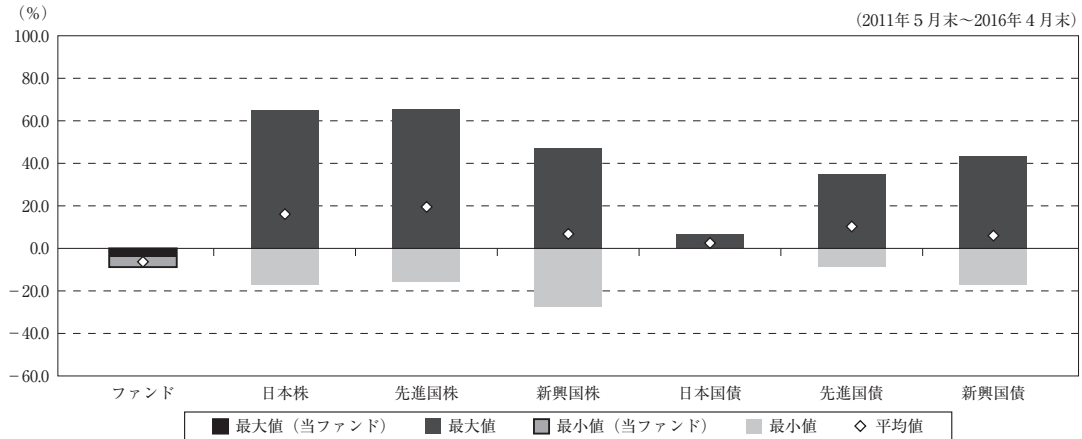
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2024年11月20日まで	
運用方針	・投資信託証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産（コモディティ）を実質的な投資対象とし、投資信託財産の成長を図ることを目標として運用を行います。	
主要投資対象	インベスコ プレミア・ プラス・ファンド	「インベスコ バランススト・リスク・アロケーション マザーファンド」および「インベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）」を主要投資対象とします。
	インベスコ バランススト・リスク・ アロケーション マザーファンド	別に定める投資信託証券 <sup>*</sup> への投資を通じて、日本を含む世界各国の債券、株式、コモディティに実質的に投資します。 ※別に定める投資信託証券とは、ルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランススト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘッジ付）です。
	インベスコ マネープール・ファンド (適格機関投資家私募投信)	主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資します。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産に実質的に投資します。</li> <li>・債券、株式、資源資産3資産のリスク寄与度を同程度に配分する戦略的配分を行った上で、期待リターンの上昇を目的としてその配分を変更する戦術的配分を行います。</li> <li>・実質外貨建資産については、実質的に為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。</li> </ul>	
分配方針	原則として年2回の毎決算時（5・11月の各20日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。	



## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	-6.3	16.1	19.5	6.8	2.5	10.3	6.0
最大値	-4.2	65.0	65.7	47.4	6.7	34.9	43.7
最小値	-8.8	-17.0	-15.6	-27.4	0.4	-8.6	-17.4

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年5月から2016年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、当ファンドは2015年11月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P13の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2016年5月20日現在)

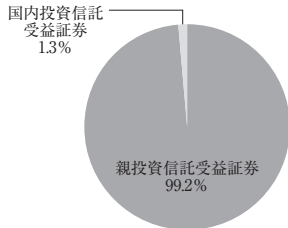
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第3期末
	%
インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド	99.2
インベスコ マネーブル・ファンド(適格機関投資家私募投信)	1.3
組入銘柄数	2銘柄

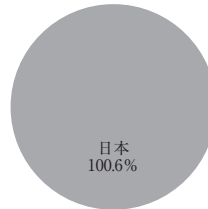
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

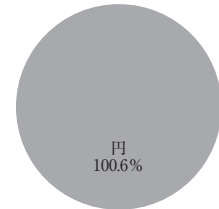
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

## 純資産等

項目	第3期末
	2016年5月20日
純資産総額	373,990,176円
受益権総口数	383,963,224口
1万口当たり基準価額	9,740円

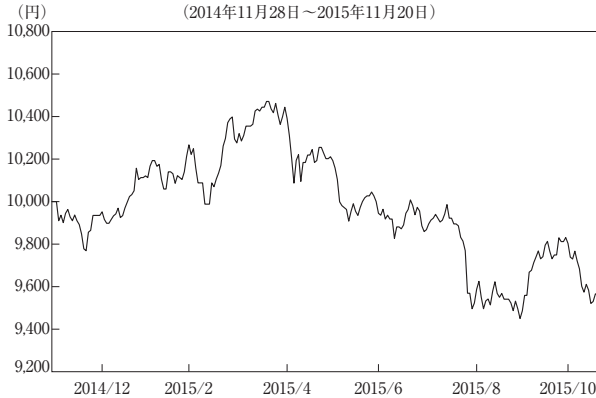
\*期中における追加設定元本額は5,225,511円、同解約元本額は138,587,868円です。

## 組入上位ファンドの概要

## インベスコ バランスド・リスク・アロケーション マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2014年11月28日～2015年11月20日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2014年11月28日～2015年11月20日)

該当事項はございません。

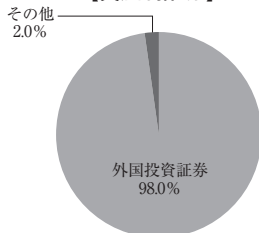
## 【組入上位ファンド】

銘柄名	第1期末
インベスコ・バランスド・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation	98.0%
組入銘柄数	1銘柄

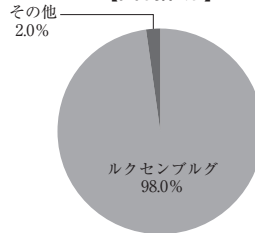
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

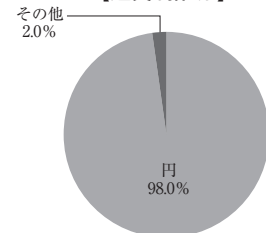
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

(参考情報) ルクセンブルグ籍外国投資法人  
インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド

「インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド」が主要投資対象としている「インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド」の直近の情報は以下の通りです。

【組入上位10銘柄】

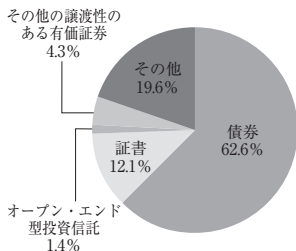
(2015年2月28日現在)

	銘柄名	種別	国	比率 %
1	Bundesobligation 1.75% EUR 09/10/2015	債券	ドイツ	5.8
2	Bundesrepublik Deutschland 3.25% EUR 04/07/2015	債券	ドイツ	5.8
3	Bundesobligation 2.25% EUR 10/04/2015	債券	ドイツ	5.8
4	Bundesschatzanweisungen 0.25% EUR 11/09/2015	債券	ドイツ	5.8
5	Bundesschatzanweisungen 0% EUR 11/12/2015	債券	ドイツ	5.8
6	Bundesschatzanweisungen 0% EUR 12/06/2015	債券	ドイツ	5.7
7	Bundesschatzanweisungen 0.25% EUR 13/03/2015	債券	ドイツ	5.7
8	CIBC Bank 0% 05/10/2015	債券	米国	4.8
9	Bundesrepublik Deutschland 3.5% EUR 04/01/2016	債券	ドイツ	4.4
10	Bundesobligation 2% EUR 26/02/2016	債券	ドイツ	4.4
	組入銘柄数		21銘柄	

(注) 比率は純資産に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

【資産別配分】



(注) 比率は純資産に対する割合です。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

【国別配分】

必要な情報が開示されていません。

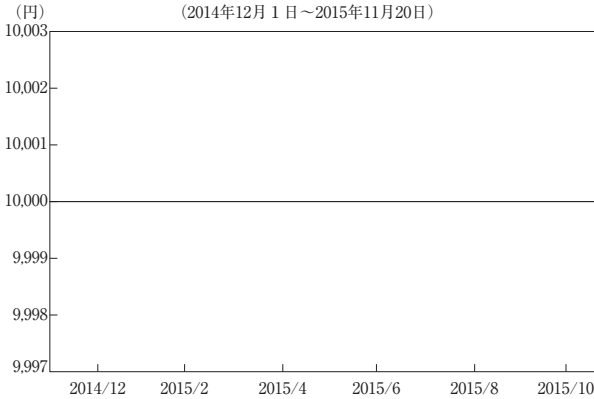
【通貨別配分】

必要な情報が開示されていません。

インベスコ マネープール・ファンド (適格機関投資家私募投信)

【基準価額の推移】

(2014年12月1日～2015年11月20日)



【1万口当たりの費用明細】

(2014年12月1日～2015年11月20日)

該当事項はございません。

組入資産の内容

(2015年11月20日現在)

2015年11月20日現在、有価証券等の組み入れはございません。

## ＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

### ○TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

### ○MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

### ○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

### ○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

### ○JPモルガンGBI – EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

JPモルガンGBI – EMグローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJPモルガンGBI – EMグローバル・ダイバーシファイド（米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.